

鶏 肉 情 勢

項 目		内 容
生 産	1. 国内	(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会10月下旬実施)によると、9月の推計実績は、処理羽数59,012千羽(前年比104.4%)・処理重量169.9千ﾄﾝ(同103.0%)となり、前月時点の計画値と比較すると処理羽数(同104.3%)はほぼ計画とおりのだったものの、処理重量(同105.0%))は猛暑の影響等で下回った。羽数の伸びに対し重量の伸びが下回っている状態が5月以降継続している。廃棄合計も3.08%と前年同月より0.08%上回った。 (2) 10月も処理羽数(前年比102.2%)・処理重量(同101.6%)とも前月時点の計画(102.5%・102.4%)から下方修正されており、生体重の回復が見られない状況。11月は処理羽数(同98.2%)・処理重量(97.5%)とも前年を下回る計画ではあるが、前月時点での計画(98.0%・97.0%)からは、若干上方修正されており増体の回復も期待されている。12月については、処理羽数(同101.4%)・処理重量(同100.3%)とも前年並みと計画されている。10-12月の計画値を含めた令和2年年間の出荷は処理羽数(前年比102.4%)処理重量(同101.8%)ともに前年を上回ると見込まれている。
	2. 輸入	(1) 財務省10月29日発表の貿易統計によると、9月の鶏肉(原料肉)輸入量は41.5千ﾄﾝ(前年比77.4%)で、日本食肉輸入協会の子測(42.6千ﾄﾝ)を約1.1千ﾄﾝ下回り、前月同様外食産業の需要減退および在庫過多により調整したものと思われる。国別ではブラジルが予測を約2.0千ﾄﾝ下回る30.9千ﾄﾝ(同77.3%)、タイは約0.1千ﾄﾝ上回る9.6千ﾄﾝ(同81.5%)となった。1-9月累計でも399.1千ﾄﾝ(同95.6%)と前年を下回った。同協会(10月19日鶏肉輸入動向検討委員会)は、10月44.6千ﾄﾝ(同86.4%)、11月43.6千ﾄﾝ(同89.3%)との予測を公表し「10月現在、国産ムネ肉の代替需要が一部で見受けられるが、コロナの影響により外食需要が回復していないことから、引き続き厳しい状況にある。国内在庫も相当量存在しており、価格も当面上昇する気配はない。」とコメントしている。 (2) 鶏肉調整品の9月輸入量は35.2千ﾄﾝ(前年比85.6%)と、前月より約2.0千ﾄﾝ増加したものの3ヶ月連続で40千ﾄﾝを割り込んだ。国別ではタイ産が前月比約1.4千ﾄﾝ減少し前年比83.6%の21.49千ﾄﾝ、逆に中国産は前月比約3.3千ﾄﾝ増加の13.27千ﾄﾝ(同88.3%)となった。1-9月累計でも前年比91.6%と外食需要等の減少が影響し、下回った。10月以降についても、流動的にクリスマス特需等控えてはいるが、中国国内の動向次第と思われる。
需 要	1. 家計消費	(1) 総務省統計局発表の家計調査報告によると、8月は、全国一世帯当たりの3畜種生鮮肉の消費(購入)数量は3,913g(前年比114.0%)、金額も6,171円(同116.2%)とともに前年を上回った。畜種別でみると牛肉は数量(同109.9%)・金額(同114.0%)ともに上回り、豚肉も数量(同112.1%)・金額(同116.1%)ともに上回った。特に鶏肉については、牛肉・豚肉に比べ安価なこと等で前月に引き続きテーブルミート等での購入が活発で数量(同118.4%)、金額(同120.2%)とも前年を大きく上回った。また加工品についてもハム(同104.6%)、ソーセージ(同104.0%)、ベーコン(同111.3%)の数量が増加した。
	2. 量販・卸	(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、9月の食品売上高は全店ベースで前年比103.5%と上回り、生鮮3部門の売上高も全店ベースで前年比107.1%、既存店ベースでも同105.7%と上回った。畜産部門の売上高は1,077億円で全店ベース(同106.9%)、既存店ベース(同105.6%)とも前月に続き上回った。「日曜日が一日少ない影響を受けたものの、引き続き外食自粛や家庭での調理用食材への需要は高止まりしており、全般的に好調となった。上旬は気温が高く、特に週末はステーキや焼肉用高級商材の動きがよかった。国産豚肉は相場高が続いているなかで伸び悩みがみられており、輸入豚の売り込みを強化した店舗もみられた。下旬以降は鍋需要によりバラ肉や鶏肉が好調となった。ハム・ソーセージなど加工肉は、運動会中止の影響で不調となった。」と報告された。また総菜部門の売上高は全店ベース(同100.8%)では前年並みであったものの、既存店ベース(同99.4%)では下回り、「引き続きイベント中止による予約販売の低迷、家庭内調理機会の増加による中食需要の低下で不振傾向が続いている。やや回復傾向もみられはじめてはいるものの、ばら売り販売中止が影響した。家飲み用のおつまみや焼き物はこれまで同様堅調に推移した店舗が多かった。」と報告があった。
	3. 業務・加工筋	(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる8月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比94.9%の4.39千ﾄﾝとなった。うち国内物が同95.4%の3.66千ﾄﾝ、輸入物も同92.7%の0.74千ﾄﾝと下回った。1-8月累計では国産物は同101.5%と上回っているものの、輸入物が同85.7%と大幅に下回り合計では同98.7%となった。加工用としての輸入が減少したものと思われる。鶏肉加工品は9月以降も引続き家庭内需要や中食需要の高まりから動きも堅調と考えられ、逆に中国等からの調整品輸入が減少となっていることを考えると引続き国産物での製造量増加が期待できると思われる。
在 庫	1. 令和2年8月	(1) 推計期末在庫は国産27.97千ﾄﾝ(前年比97.4%・前月差△1.54千ﾄﾝ)、輸入品139.15千ﾄﾝ(同108.5%・同△1.47千ﾄﾝ)と合計で167.13千ﾄﾝ(同106.5%・同△3.02千ﾄﾝ)となった。前月に比べ生産量が10.37千ﾄﾝ減少し、輸入量も11.27千ﾄﾝ減少した。国産品の出回り量が生産量を上回ったため、国産品の在庫は減少した。輸入品は、外食関連の低迷等から、出回り量が21.39千ﾄﾝ減少の41.78千ﾄﾝ、輸入量も11.27千ﾄﾝ減少したため在庫は若干減少した。しかしながら前年からは引き続き上回った状況で推移している。
	2. 見通し	(1) (独)農畜産業振興機構の需給予測(10月28日公表)では、9月は国内生産量が前月より増加(約2.6千ﾄﾝ)し、輸入量も前月比で約2.3千ﾄﾝ増加、出回り量も前月比で約2.6千ﾄﾝ増加するため期末在庫は約166.2千ﾄﾝと前月より約0.9千ﾄﾝ減少し、前年(164.3千ﾄﾝ)より約1.1%増加の見通しとなっている。 (2) 10月は前月比で生産量が前月より約14.4千ﾄﾝ上回り、輸入量もブラジル中心に約2.0千ﾄﾝ増加、出回り量も約14.2千ﾄﾝ増加するため期末在庫は国産・輸入品合計で約1.2千ﾄﾝ増加の約167.4千ﾄﾝ(前年比100.1%)と予測されている。11月は生産量が約4.8千ﾄﾝ減少し、輸入量も約1.0千ﾄﾝ減少、出回り量が約1.6千ﾄﾝ減少するも、在庫は3.0千ﾄﾝ減少の約164.4千ﾄﾝ(前年比98.9%)と予測されている。今後も新型コロナウィルスの影響による需給動向に注視が必要である。
相 場	1. 10月動向	(1) 10月の月平均相場は、もも肉632円/kg(前月比+23円)・むね肉292円/kg(同+11円)正肉合計で924円/2kgと前月比で34円上回り、前年比でも114円上回った。もも肉は月初622円で始まり、ほぼ保ち合い圏内から上げ基調で推移し月末639円と結果+17円高となった。むね肉も、月初291円で始まり、週初めから上げ基調で進み週末下げのパターンで推移し月末296円と5円高となった。外出自粛が続くなか内食需要が引き続き強く量販店等からの引き合いに左右された格好になったと思われる。
	2. 見通し	(1) 11月は、気象庁発表による向こう1か月の気温は暖かい空気に覆われやすいため平年並みか高い予報となっている。行楽機運が高まる中、鍋物等での需要が増加することからもも肉は前月末(639円)から強含みで推移し月平均650円と予測する。むね肉についても、いまだ加工筋からの引合いも堅調であり、保ち合い圏内の月平均295円と予測する。 (2) 今年も残り2か月となり、新型コロナ感染の終息が見えぬ中、国産鶏肉は内食需要の高まりで、量販店・生協等からの引き合いも強い。輸入品在庫が豊富で価格も上昇する気配がないため、量販店が取り扱いを拡大する懸念があるものの、鶏肉生鮮相場は12月も強含みで高水準での推移が見込まれる。

令和2年11月4日 更新

全農チキンフーズ(株)

実 績										
生産状況			単位:千羽、千トン、%							
	R2年9月推計実績		R2年10月計画		R2年11月計画		R2年12月計画		R2年合計	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	67,780	104.1%	63,146	97.8%	61,028	98.4%	68,373	102.5%	760,304	101.6%
処理羽数	59,012	104.4%	63,366	102.2%	60,245	98.2%	66,966	101.4%	728,540	102.4%
処理重量	169.9	103.0%	187.8	101.6%	180.6	97.5%	199.8	100.3%	2,164.5	101.8%
※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」										

※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」

輸入動向											
単位:千トン、%											
品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R2年6月	50.7	43.4	116.8	41.6	39.0	106.7	92.2	82.4	112.0	54.9	45.1
R2年7月	51.6	53.2	96.9	38.4	46.6	82.3	90.0	99.8	90.1	57.3	42.7
R2年8月	40.3	50.5	79.8	33.2	42.0	79.2	73.5	92.5	79.5	54.8	45.2
R2年9月	41.5	53.6	77.4	35.2	41.1	85.6	76.7	94.7	80.9	54.1	45.9
R2年累計	399.1	417.5	95.6	343.4	374.9	91.6	742.5	792.4	93.7	53.7	46.3

※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」、全国食鳥新聞

鶏肉の消費動向(2人以上の世帯)							単位:グラム、円、%			
履歴	数量			金額						
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比				
R2年6月	1,599	1,437	111.3	1,408	1,268	111.0				
R2年7月	1,530	1,298	117.9	1,364	1,185	115.1				
R2年8月	1,473	1,244	118.4	1,348	1,121	120.2				
R2年平均	1,563	1,377	113.5	1,418	1,265	112.1				

※参考資料:総務省統計局HP

相場(年別・暦年)

単位:円			
	もも肉	むね肉	計
H26年	626	294	920
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828

在庫状況									
単位:千トン、%									
履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年5月	21.1	30.7	68.8	148.3	122.1	121.4	169.4	152.8	110.9
R2年6月	18.6	30.6	60.7	152.2	123.0	123.7	170.8	153.6	111.2
R2年7月	29.5	29.0	101.6	140.6	127.6	110.2	170.1	156.6	108.6
R2年8月	28.0	28.7	97.4	139.2	128.2	108.5	167.1	157.0	106.5

※実績参考資料:畜産日報、農畜産業振興機構

相場(月別)									
単位:円、%									
品名	もも肉			むね肉			正肉合計		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年7月	598	543	110.1	261	222	117.6	859	765	112.3
R2年8月	596	535	111.4	272	225	120.9	868	760	114.2
R2年9月	609	544	111.9	281	235	119.6	890	779	114.2
R2年10月	632	556	113.7	292	254	115.0	924	810	114.1
R2年11月	(650)	570	114.0	(295)	262	112.6	(945)	832	113.6
R2年12月	(660)	606	108.9	(295)	266	110.9	(955)	872	109.5
R2年平均	603	588	102.6	262	237	110.5	865	825	104.8

※()は見通し

※1-10月平均